フランシスコ教皇のpopular movementsへの書簡　コロナ禍のイースター当日に　2020.04.12

半訳rev.4　齋藤旬、原文は[ここ](http://www.vatican.va/content/francesco/en/letters/2020/documents/papa-francesco_20200412_lettera-movimentipopolari.html)

people運動・組織の兄弟姉妹の皆さんへ

親愛なる友人たち

過日の幾つものPM大会をよく思い出します。ローマで二回、ボリビアのサンタ・クルツ・デラシエラで1回(\*)。これらの記念が今も私の心の中で温かさをシッカリ保っています。今も皆さんが近くにいるように感じ、取り交わした数々の対話が甦ってきます。思い出します。あの話合いの中から生まれた幾つもの美しいプロジェクトが形になり現実になったこと。そしていま、このパンデミックのただ中で、特に皆さんに思いが至ります。皆さんに、親しみを込めてこの書簡を送ります。

(\*) 訳補遺：2017年2月に米カルフォルニアでヒスパニックを中心に第4回が開催されたが、トランプ政権の思わぬ出現で、規模は縮小され教皇の出席は叶わなかった。恐らく意図的にこの第4回PM大会に言い及ばなかったのだろう。

この難局に感じる深刻な不安から、多くの人がこのパンデミックを戦争の様だとたとえます。確かに、もしCOVID-19に対する闘いが戦争ならば、皆さんは目に見えない（invisible）戦闘員かもしれません。最も危険な塹壕で、闘う手段と言えば連帯、希望、そして共同体精神だけ。誰も、自分ひとりだけが助かることはない。その中で、自然に湧き上がる気持ちだけで闘う戦闘員。しかしPM大会でお話ししたように、私にとって皆さんは社会詩人です。忘れ去られた辺境の地に住み、社会の主流から取り残されたがゆえに降りかかる差し迫った数々の問題に、驚嘆すべき解決策を次々と編み出してきた、社会詩人です。

皆さんは、社会から認知されるに値します。しかしそうなっていません。なぜなら、現行社会システムにとって皆さんはinvisibleだからです。市場による問題解決は周辺地には届きませんし、国家による保護もほとんど見ることはありません。その様な機能を置き換える資源も辺境地にはありません。皆さんは、不信の目を向けられただ傍観されているのです。皆さんが、人類愛の域を超える共同体組織を通じて動くとき、経済権力の食卓からパン屑が落ちてくるのをただ待つのでなく自らのrightsを主張するとき、「そんなことあり得ない」とただ傍観されているのです。皆さんは怒りを感じる。あるいは、ありとあらゆる言い訳で経済特権が維持されるなか、如何ともしがたい格差に対して無力感を感じている。しかしながら、あきらめて文句ばかり言っているのではありません。服の袖をまくり上げて、家族のため、共同体のため、そして共通善のためにworkし続けています。皆さんの粘り強さが私を勇気づけ、力づけます。皆さんに教わること「大」です。

the peopleが、特にご婦人方が、無料食堂に立ってパンを割いている様を思い出します。タマネギ二つとご飯パック一つで、何百人もの子どもたちに美味しいシチュウを御馳走します。ご病気の方も、お年寄りの方も私は思い出します。この人たちはニュースでは取り上げられません。小さな農場とその家族たちのことも取り上げられません。自然環境を壊さず、囲い込みもせず、人々の必需品を搾取することもせず。なのに、ニュースにはなりません。でもこのことはご承知おき下さい。私たちの天なる父は、皆さんを見守っています、大切に思っています、感謝しています。そして皆さんの貢献活動を下支えしています。

stay homeしろと言われても、ちっぽけな今にも崩れ落ちそうな住居に生きる者にはとても難しいことです。ましてやhomelessには！　移民や自由を奪われた者達、依存症から社会復帰のためリハビリを続ける者にも、難しいことです。皆さんはそういう人達と協力して困難を軽くし痛みを和らげようとしています。私は心から感謝し、ねぎらいます。機械的な技術官僚思考法（technocratic paradigms）では、（国家が率先して行うものであれ市場に需要先導されるものであれ）、今回のこの危機も人類が直面している大きな問題の数々も、最早乗り切ることはできない。このことを各国政府がunderstandすることを私は望みます。この難局に今度こそは、persons, communities and peoplesが一つの中心となって、癒し、ケアし、分かち合わねばなりません。

皆さんがglobalizationの恩恵から除外されていることを承知しています。というより、沢山の者達の良心を麻痺させている浅薄な娯楽を、皆さんは自分の意志によって受け付けません。むしろそれが生み出す害毒に何時も悩まされています。つまり全員を苦しめている諸悪に皆さんは二倍苦しんでいます。そのため皆さんの多くはその日暮らしかもしれません。何らの法的保障も皆さんには及んでいない。露天商、廃品回収業、巡回カーニバル業、小規模農業、建設現場労働者、服飾業、様々な介護職、などなど、草の根または個人として働く皆さんは非正規労働者であり、この難局にあたって安定した収入が得られていません。…そしてロックダウン（都市封鎖）が耐えがたいものになりつつあります。この時代が、a universal basic wage (\*\*)を本気で考えるよう祈ります。そうなれば、皆さんの行っている本質的に尊いtasksは世の中に認められ尊厳づけされます。それは、no workers without rightsの理想を、則ち人間（human）の、そしてキリスト者の理想を、確実に具体的に達成するでしょう。

(\*\*)　訳補遺：a universal basic wageを訳すなら全活動基本稼得保障が適当か。なおここで、一般的用語である basic incomeでなくbasic wageとした所に教皇の思想である”no workers without rights”が表れている。また助動詞mayを、祈りのmayとした。

更に、「パンデミック後の社会生活」について熟慮するよう皆さんに緊急提言します。この嵐はやがて過ぎ去りますが、その深刻な爪痕は既に感じられます。でも皆さんは無力ではありません。こういった事態に対処する方法や文化を持っています。そして何より、他者の悩みや苦しみを感じるパン酵母を自分の心の中に練り込んだwisdomを持っています。私たち全員が、integral human development（高次統合人類発展）プロジェクトについて考えるよう望みます。私達が長い間待ち望んだプロジェクト、あらゆる多様性の中にあるthe peopleのイニシアティヴが中心の役割を担い、スペイン語でthree Ts（三つのT）となるTrabajo (work), Techo (housing), and Tierra (land and food)を全ての人に行き渡らせるプロジェクト、これに思いを至らせて下さい。今回の危難の時を、自動航行装置による社会運営の呪縛から逃れる機会ととらえ、眠っていた私たちの良心を揺り起こして下さい。人道的にecological conversion（エコロジーを踏まえた回心）を行い、金銭崇拝の社会システムに終止符を打ち、人間の命と尊厳をその中心に据え直して下さい。今までの私たちの文化 ― 競争に明け暮れ、個人主義に陥り、慌ただしく生産と消費を繰り返す、度を超えた贅沢のために、少数富裕者に不均衡な金銭的利益を与えるために ― この文化の車のギアをシフトダウンし、在庫調査を綿密に行い、根底からリニューアルしなければなりません。皆さんはこの、最早先延ばしにできないchangeの、欠くべからざるbuildersです。更に言えば、このchangeは可能だと公に宣言するならば、皆さんの発言権はauthoritativeとなります。既に皆さんは諸々の危機と困難について経験豊富です….ですから皆さん、この危機と困難を、家族と共同体のための明るい生活展望へと、慎み深いながらも尊厳のある貢献、勤勉、連帯によって、何とか転換していきましょう。

この頑張りを貫きましょう。お互いを兄弟姉妹として大切にしましょう。私は皆さんのために祈ります。皆さんと共に祈ります。父なる神が、皆さんを祝福しその愛で満たしますように。この旅の途上、皆さんを守りますように。自信を持って立ち続け、決して諦めない強さ、則ち、hopeが、皆さんに与えられますように。そして皆さん、私のためにもお祈り下さい。私にもそれが必要だからです。

Fraternally,

Francis

*Vatican City, Easter Sunday, 12 April 2020*